

これまでの懇話会での委員意見のふりかえり

現状

- 旧亀岡会館は、昭和45年の建設以来、本市の文化ホールとして文化イベントや発表会の開催などで長年住民に親しまれてきたが、耐震性に問題があることから、平成27年の休館を経て、令和元年に除却が完了している。
- ギャラリーかめおかのコンベンションホールや響ホールは、音響設備や照明設備の性能が十分でなく、緞帳が設置された舞台が無いなど、文化イベントや発表会の開催にあたり支障がある。
- 亀岡市文化資料館は、亀岡市立女子技芸専門学校として昭和49年に建設された建物を転用していることから、老朽化が進むとともに、様々な面で使用上の制約が出てきている。

今後の方向性について

- 人口減少が続いており、税収の増加が見込まれない中、新たな文化施設を新設した場合、建設費や維持管理費により、住民への負担が増加することが見込まれる。
- 将来世代に過大な負担を残さないよう、亀岡市の財源の他に、ふるさと納税、クラウドファンディング、企業協賛、寄付金等で財源を確保するよう努める。
- 文化的なあらゆる活動が可能になる総合文化施設として新設することを求める意見もあるが、ギャラリーかめおかや閉校予定の学校施設などの、亀岡市が保有する既存の施設を有効活用することも考えられる。
- 文化施設の検討を進めるにあたっては、施設の整備に慎重な意見が目立つLINEアンケートの結果を踏まえるべきではないか。
- 亀岡市が行ったLINEアンケートの結果を見ると、住民一般には支持が多く得られていないのではないかと捉えられるため、整備を求める団体等が率先して資金調達に協力するなど、住民の理解を得られるよう努める。
- 亀岡市の現在の財政状況を考慮すると、直ちに新たな文化施設の整備に着手することは難しいため、京都府や近隣の自治体と協力して整備することを検討してはどうか。また、長期的に検討するにあたって、実現化に向けたロードマップを作成する。

文化資料館のあり方について

- 新たな文化施設については、新資料館構想を踏まえて、検討を進めてもらいたい。
- 資料保存用の収蔵庫は、整理整頓して保存できるよう十分な面積を確保するべきだが、展示用の施設は広くなくてもよい。
- 専門的な展示室の他に、散歩のついでや、子どもと遊びに来た人が気軽に入ることができるような、交流できる憩いの場所を整備してほしい。
- 子どもたちが学校の授業で訪れた際や保護者と一緒に学習できる場として、学びと遊びがつながる体験学習など、ソフト面の充実が必要である。
- 亀岡祭の山鉾の実物を資料館内に設置し、お囃子などの体験で多くの人が実際に触れることができ、亀岡の観光PRに繋がる発信力のある施設を目指してほしい。
- 文化資料館を他施設との複合施設として整備する場合、資料の保存条件を考慮して建物の仕様は別とする。

文化ホールのあり方について

- 利用者の観点からは、現状亀岡市に存在しない、音響設備が整った舞台の整備を優先してほしい。その他には、舞台裏・舞台袖等における十分なスペースの確保や緞帳の設置といった、舞台設備の充実を求める。
- あらゆる世代が芸術を楽しめるよう、子育て中の人にも配慮した施設としてほしい。
- 建設時に発行する市債の返済が続くことを考慮し、施設の規模は30年後から40年後の亀岡市の人口予想を前提とする。
- 1,000人規模の講演会やシンポジウムはガレリアかめおかのコンベンションホールを利用できるため、新たに整備するホールの座席数は400席から500席程度にとどめ、高性能な音響設備や照明設備等の設置を優先する。
(参考：旧亀岡会館 776席)
- ガレリアかめおかの敷地内に文化ホールを増設することや、コンベンションホールや響ホールを改修することを検討してはどうか。
- 一か所に大人数が集まるホールを検討するのではなく、亀岡市が保有する数か所の施設を改修することで、それぞれの施設は小規模であっても、全ての施設の収容人数を合わせると、大人数の集客が可能となるといった考え方もできる。